

城かべ 古代漆喰 屋根中塗用

- 古代の技術を現代に再現した古代漆喰。その優れた耐候性は、屋根しつくいとしても最適です。太めのスサと骨材を配合して、強度をアップしました。
- 従来の既調合しつくいとは異なる、全く新しいタイプのしつくいです。
 - 完全な無機質材料で変質劣化せず、保存期間は無制限。
 - 練り状なので、現場での面倒な作業は一切不要。
 - 乾燥すれば白く硬く仕上り、そのままの仕上げも可能です。



商品概要

- | | |
|-------|----------------------|
| ①品名 | 城かべ古代漆喰屋根中塗用 |
| ②性状 | 白色半練り状 骨材入り |
| ③主原料 | 消石灰、植物繊維、細骨材、植物油、その他 |
| ④荷姿 | 20kgポリ袋 |
| ⑤用途 | 壁中塗り、屋根工事 |
| ⑥用法 | 開封してそのまま使用 コテ塗り |
| ⑦塗面積 | 5㎡(1.5坪)/2.5mm |
| ⑧設計単価 | 2,800円/㎡(480円/㎡) |

城かべ 古代漆喰 屋根中塗用

施工要領

1. 混練

- ① 開封する前に袋の上から軽く踏みほぐしておきます。
- ② 袋から直接コテ板に取り出してお使い下さい。多く使用する場合は容器に移して練ると良いでしょう。
- ③ 油はあらかじめ添加していますが、追加したい場合は「城かべ油」を添加して、良く練ってください。
- ④ 固い場合は少量の水を加えて下さい。
- ⑤ 壁の中塗には、砂を10kg程度と少量の水を加えて下さい。

2. 下地処理

- ① 屋根瓦の鹿子止めは、瓦表面の汚れを取り、シーラーを塗布して下さい。
- ② 左官下地は完全に養生、乾燥させて、シーラー引きをして下さい。

3. 塗り付け

- (屋根)
- ① 晴天の続く時期を選び、一気に仕上げて下さい。
 - ② はじめ薄くしごき塗した後、5mm程度の厚さで数回に分けて塗り重ねます。
 - ③ 塗付後1日おいて、改めて表面を押えておくと長持ちします。
- (壁)
- ① 砂割りしたものをしごき塗し、不陸を直します。
 - ② 金コテで充分押さえて下さい。(刷毛で軽く目荒しておきますと上塗りが掛けやすくなります。)
 - ③ 上塗りは生乾きのうちに追いかけで塗ってください。(上塗り用を参照)

試験項目 (試験方法)

①安定性試験 (JIS-A-6902)	②表面硬度 (JIS-A-6904,6908)	③接着強度 (JIS-A-6909)	④耐候性試験 (JIS-A-5400 ウエザ-メーター)	⑤凍結融解試験 (-30℃~80℃ 10サイクル)
合格	25.0	2.5kgf/cm ²	異常無し	異常無し

施工上の注意

- ① 砂割りする場合、砂の量が多すぎると強度不足になりますので、規定量を守って下さい。
- ② 土中塗や付着しにくい下地、施釉瓦には必ずシーラー引きを施してください。
- ③ 冬期の屋根工事は凍害が起りやすいので気温に注意してください。
- ④ 乾燥してしまうと上塗りが付かなくなりますので、上塗りは必ず追いかけ塗りをしてください。

製造



田川産業株式会社

〒826-0041 福岡県田川市大字弓削田1924番地

TEL 0947-44-2240

FAX 0947-44-8484